

新潟県立三条高等学校

生徒会

三条高校では、6月の体育祭、7月、12月のクラスマッチ、9月の文化祭（三高祭・九月祭）が主な生徒会行事になります。生徒会執行部が中心となって企画・運営し、学校やクラスが一つになって大いに盛り上がります。

先輩たちがどのような思いで活動していたか聞いてみましょう。

生徒会長より ～生徒会活動を通して～

私たち生徒会執行部は、体育祭、文化祭、クラスマッチなどの行事運営やペットボトルキャップの回収、赤い羽根共同募金など毎日様々な活動をしています。

6月上旬に行われる体育祭では全校が6軍に分かれて競技、パフォーマンス、バックボード、衣装の4部門で競い合います。特に軍団ごとに考え、形にしたパフォーマンスは参加している人全員を楽しませます。

また、令和5年度の文化祭では有志の生徒がバンド演奏やダンスを披露したりする終夜祭が4年ぶりに復活し、本来の三条高校の文化祭の形を取り戻すことができました。

クラスマッチは夏と冬の2回行われ、それぞれで3～5競技の優勝を各クラスが一丸となって目指します。クラスマッチが近くなると体育館ではたくさんの生徒が練習に励んでおり、その光景も三条高校らしいといえるでしょう。

このように生徒全員で行事を作り上げ、楽しむことで普段とは違う雰囲気が生み出せるのも、三条高校の魅力のひとつです。そんな三条高校で仲間と共に学び、支え合いながら高め合えることに、心から喜びを感じています。



体育祭



文化祭



クラスマッチ

部活動等

三条高校には、13の運動部と15の文化部があります。

運動部

陸上競技、ソフトテニス、野球、卓球、バレーボール、
バスケットボール、剣道、弓道、山岳、サッカー、ダンス、
テニス、バドミントン

文化部

写真、英語、物理・化学、生物・園芸、地学、合唱、美術、書道、
演劇、放送、囲碁将棋、吹奏楽、漫画研究、文学、競技かるた

**部活動を通じて、教室の中では得られないものを得ることができます。
生徒会誌『燦光』から、いくつかの部活動の様子を紹介します。**

ダンス部 ～ IT'S SDC TIME! ～

今年度もダンス部は、パワフルに明るく、学年の壁を超えて楽しく活動しています。主な活動内容は春、秋の大会の出場や体育祭でのエキシビション、文化祭のパフォーマンスです。

文化祭では三年ぶりの一般公開だったので、どうすれば多くの方々を楽しませられるかについては特に時間をかけて考えました。今回、私たちが大切にしたいことは表情です。曲のテーマによって表情を変えることで、見ている人を飽きさせないようにしたいと考えました。文化祭の本番が終わってから、先生方や友達に評価してもらえたことで達成感を得ました。

発表を成功させるために真剣に練習に取り組んだり、苦勞したこともたくさんありましたが、部員のみんなの協力もあり、最高のパフォーマンスをすることができたと思っています。

私はダンス部に入って「踊る楽しさ」を改めて強く実感しています。できなかつたことが練習を重ねることでできるようになった時の達成感を味わったり、自分自身を表現することで自己肯定感が得られます。ダンスを通して自分の軸を作り、新しいことにどんどんチャレンジしていけるように、これからも日々成長していきます。



野球部 ～ 新チームになって ～

令和5年の夏、私たち野球部の先輩方は選手権大会でベスト8.に進出し、43年振りの快挙を成し遂げました。一方で、新チームになって迎えた秋の大会では糸魚川高校と当たり、2対12で初戦負けという結果で終わってしまいました。1・2年生だけでは勝ち進んでいく力が足りないことを自覚しました。そこで、私たちは「下剋上」というチームテーマを立てました。前チームとは雰囲気も変わり、私たちは「明るさ」を武器に勝てるチームをゼロから作ります。明るさを武器にするというのは、苦しい状況でも、下を向かず、自分たちの力で突破口を開くということです。特に私たちのような公立高校が強豪私立を倒すには一筋縄ではいかない場面がきっとあると思います。ですが、チームとしてその武器を最大限に活かして強く前向きに立ち向かっていきます。私たちはオフシーズンに入ると練習試合ができなくなるので、目標やモチベーションを見失いがちですが、「真の一致団結」を目指して、仲が良いだけではない、お互いを高め合える関係を築いていきます。

今年、春の大会では上位進出を果たし、夏の選手権大会では、今までお世話になった先輩方や関わって下さった皆さんに甲子園初出場の報告ができるよう、日々の活動に励んでいます。



書道部 ～ 書は想いを表す ～

私たち書道部は、個人の作品制作と文化祭や地域のイベントなどでの書道パフォーマンスを中心に活動しています。

作品制作では一人一人が古典作品をよく観察し、文字の特徴やバランス、余白など様々なことを意識して取り組んでいます。作品制作は個人ですが、お互いにアドバイスをしたり励ましあったりしています。そのような過程で技術や集中力を向上させることができるので、作品制作も団体戦のようだと思います。

昨年度のパフォーマンスは「祝福」をイメージし、皆が言葉を一から考えて制作しました。想いをどのような言葉で表現するか、どのようにして書にするのかを、皆で悩みながら制作するのは難しいことでもありましたが、同時に楽しいことでもありました。本番では、皆が筆に想いを乗せて力強いパフォーマンスを披露できました。

書は同じものが一つもありません。一つ一つに違った想いがこめられています。なので、書はその人の想いを表すものだと思います。私たちはこれらの想いをつなげていくために、書の魅力を伝えられるようにしたいと思います。そして、私たちのこの想いを表現できるような作品を、日々一生懸命練習して制作していきます。

